東京都総合防災訓練への海外レスキューの参加について
平成２２年度報告書

アジア大都市ネットワーク２１（ANMC２１）では、危機管理に関する経験やノウハウの共有化を図り、蓄積を進めていくと共に、危機管理に係る人材育成を行うため、共同事業「危機管理ネットワーク」に取り組んでおり、毎年、総合防災訓練にアジアの救助隊を招いています。

５回目となる今年は、台北市と台北県の合同部隊 10 名が来日し、8 月 26 日と 27 日、東京消防庁消防救助機動部隊と合同訓練を実施しました。8 月 29 日の「平成 22 年度東京都・文京区合同総合防災訓練」では、首都直下地震により被災した東京に海外からの救助隊が到着したという想定で、訓練を行いました。

今回は、東京消防庁第六消防方面本部で行われた合同訓練に焦点を当てて、訓練の様子をご紹介します。

水難救助資機材の展示説明

8 月 26 日午後、いよいよ東京消防庁第六消防方面本部の消防救助機動部隊との合同訓練が始まりました。冨岡総括隊長による部隊の説明、訓練施設を視察した後、台北市の希望プログラムである水難（急流河川）救助資機材の展示説明が行われ、参加した隊員たちは熱心に質問をしていました。その後、台北隊による救助技術デモンストレーションが行われ、相互の装備や技術の違いを理解するよい技術交流の機会となりました。

この日、第六消防方面本部で対応した古川隊長は、1999 年 9 月 21 日に発生した台湾地震の際に、国際緊急援助隊救助チームとして台湾に派遣された隊員の一人です。古川隊長は、台北市の林隊長とすぐ近くの現場で活動していたことが分かりました。林隊長からは、「当時、台湾では地震発生後の救助ノウハウがあまりなかったので、混乱している部分があった。いち早く到着した日本隊の活動を見て感動した。あの地震をきっかけに、台湾でも国際救助隊の重要性に関する認識が高まった」との話しがありました。

台北隊による槽内救助訓練

8 月 27 日、この日は丸一日かけて本格的な合同訓練を行いました。灼熱の太陽の下、最初のプログラムは消防救助機動部隊が月に一度行う「ブラインド訓練」です。これは、訓練を行う部隊に、事前に訓練想定を知らせずに救助活動を行わせるという、緊張感あふれる訓練です。訓練終了後、冨岡総括隊長からの講評では、捜索の初期段階は機材に頼りすぎず、自分の五感を使うこと、アイコンタクトや声出しによる隊員間のコミュニケーションを行うことが大切であること、また隊員の安全確保が重要であることが繰り返し指摘さ

れました。台北隊からは、「現場の安全管理手法については、台湾ではまだまだ発展途中であり、東京消防庁の安全管理体制を参考にしたい」、「東京消防庁の部隊の素晴らしさは、機材もさることながらそのスピリットにある」との話がありました。訓練の最後には結城部隊長から東京消防庁の安全管理体制について、組織面、活動隊形、資機材の面からの安全管理について詳細に説明を行い、台北隊と活発な意見交換を行いました。

この日は他にも、槽内救助訓練（マンホール槽内等で事故にあった人を救助する訓練）や総合防災訓練に向けた事前訓練、台北市の希望による火災現場検索訓練等盛りだくさんのプログラムが炎天下の中、行われました。また、昼食後には、消防救助機動部隊と台北隊の交流を深めるため、合同ランニング、２班に分かれてのダッシュ＋ロープ結び競争など、救助隊ならではのハードなメニューもあり、汗だくになりながらも笑顔の出る楽しい場面もありました。

合同でランニング

各機関と連携しての救助訓練（総合防災訓練）

8 月 29 日の総合防災訓練当日は、東京消防庁と息のあった活動を実施し、3 日間にわたる訓練の成果を披露することができました。その規律の取れた動きは関係者からの評価も高く、5 回目を迎える訓練の成果が見られました。台北隊からは、「こういった継続的な技術交流をぜひ今後も続けたい」という発言もあり、短い間ではありましたが、東京都と台北市の連携を強化する絶好の機会となりました。

台湾地震の例を見るまでもなく、海外で活動する救助隊は、同じ隊員と世界各地の現場で再会することも多いそうです。今回、共に訓練をする中で培った絆が、どこかの現場で役に立つ日が来るかもしれません。

ＡＮＭＣ２１では、危機管理ネットワークをはじめとするさまざまな共同事業を通じ、アジアの大都市の連携強化とアジアの発展に向けた取組を進めていきます。

第六消防方面本部にて